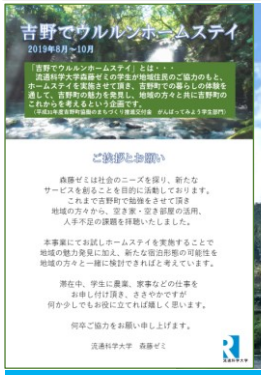
教員名	森藤　ちひろ

企画名
吉野町ホームスティプロジェクト

地域活性化型
自治体・国
住民組織



企画・活動概要

森藤ゼミは、マーケティングと消費者行動の理論を「人々の暮らしや人生を幸せにする道具」として捉え、それらを用いた消費者調査、新たなサービスの創造、ソーシャル・マーケティング（社会課題へのマーケティングの活用）の立案など実践的な学びの活動を行っています。森藤ゼミでは、2016年から奈良県吉野郡吉野町にて地域住民と共に地域活性化に向けた活動をさせて頂いています。本企画では、3年生が実施した「吉野町コミュニティデザインプロジェクト」の成果と課題を地域の方々と共有するワークショップを2年生が企画運営し、次年度の活動方針を検討しました。本事業は、学生の地域貢献と地域住民とのパートナーシップにより、まちの活性化や地域課題の解決を目指した活動を支援する「吉野町協働のまちづくり推進交付金事業頑張ってみよう学生部門」に採択され、「吉野でウルルンホームステイ」事業として吉野町からも支援を受けています。

経緯・背景・目的

「吉野町コミュニティデザインプロジェクト」では、吉野町住民宅でのホームステイの実施、実施後のホストファミリーと学生に対するインタビュー調査とアンケート調査によるホームステイの検証を行いましたが、次のステップに進むためには、実施報告と調査結果の共有、継続／軌道修正／終了の意思決定のための議論が必要です。そのため、本企画では、今年度の活動を次年度で拡充していく2年生が、第三者的な立場でホームステイ受入側と訪問側の率直な意見を引き出し、皆が納得する次の方向性を見出すワークショップを企画し、実施しました。

2年生は、住民参加に関する書籍の輪読や地域活性化の先進事例のケース学習を行い、地域活性化に重要な基礎知識を習得しました。また、ワークショップのファシリテートについても学び、アイスブレイクにふさわしいレクリエーションも入念に準備をしました。そして、ワークショップにおいて参加者が納得できる「ホームステイの検証」ができるように3年生のホームステイの活動報告を深く理解した上で、初のワークショップの運営に挑戦しました。

取り組む課題

学生は、これまでの調査から、吉野町6地区の地域活動は活発である一方で、地区間交流の機会はそれほど多くないことがわかっており、地区間で連携できる活性化の取り組みがあればよいと考えていました。ホームステイは様々な地区の方々にご協力をいただいており、地区間の新たな関係構築のきっかけになればという狙いもありました。そのため、「ホームステイの経験を共有する会」では、ホームステイの情報共有と次年度の方向性の検討に加え、共通の体験を通して連帯感が生まれるよう、地域住民同士、地域住民と学生が打ち解けて建設的な意見交換ができる場の提供を目指しました。

本学（学生）の役割

ワークショップ「ホームステイの経験を共有する会」では、ホームステイを体験した3年生が7カ所でのホームステイ活動報告とホームステイに関する意見を述べ、協力者・学生への調査結果の考察、ホームステイ事業から得られた知見と今後に対する提言を行いました。

2年生は、ワークショップ全体のファシリテートを行いました。アイスブレイクで盛り上がった後、学生は受入先の方々からホームステイの苦労や改善点を聞き、「吉野町に必要なものとそれを生み出す方法」を地域の方々と一緒に議論しました。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

2020年1月11日に吉野町龍門総合会館にて実施したワークショップ「ホームステイの経験を共有する会」には、地域の方々と学生合わせて33名が参加しました。グループディスカッションでは、協力者の方々も学生も「ホームステイは吉野町を知るきっかけとして良い取り組み」という意見で一致しました。若者が訪れることで町に活気が生まれた、若者とのコミュニケーションは新鮮だったという利点と、以下の課題が明らかになりました。

《ホームステイ受入側の意見》
・人を迎えるということで色々と気を遣った
・家事の負担が大きかった
・滞在中のスケジュールを考えることが難しかった
・手伝って欲しい仕事を頼みにくかった
《学生側の意見》
・緊張や遠慮があり、自発的に動くことが出来なかった

上記は受入先の方々と学生の間のホームステイ実施前のコミュニケーション不足が原因という結論に至りました。学生は、食事や移動について学生が自立し、一カ所滞在ではなく、時間を区切って複数のお宅に伺い、仕事を手伝うなども検討できると考えました。次年度は、吉野に必要とされる人的資源として活躍できるような取り組みに改変していきたいと考えています。

指導教員および関係者の紹介

《ご協力先》
吉野町役場、吉野町社会福祉協議会、吉野上市移住定住促進支援センター、大師山寺、くにす食堂、ゲストハウス三奇楼、木の子文庫、三茶屋おかあさん食堂、吉野シェア空、ホームステイご協力ご家庭の方々、吉野町地域住民の方々など
《森藤ゼミ2年生》
プロジェクトリーダー：金﨑里歩・三柴綾恵　　サブリーダー：高橋勇士郎
井上妃琴・上野流矢・小田宙樹・塩谷大和・柴垣要・髙松宏樹・田邉将大・堀下紗英・松浦雅人

《指導教員》
人間社会学部
人間社会学科
教授
森藤　ちひろ
専門
・マーケティング
・消費者行動